

◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：さいたま市立土呂中学校科学部

25A-35

代表者：校長 大原 照光

URL : <https://toro-j@saitama-city.ed.jp>

1. 活動が必要とされた状況

土呂中学校にはビオトープがあるが、水質は汚く、魚が住めるような状況ではない。魚が生息する大宮第2公園や、西城沼の水質調査を行い、現在の我が校にあるビオトープの水質と状況を比較する。そして、これを基に現在のビオトープの水質改善を図り、魚が住めるような水質に近づける必要がある。

また、かいぼりや、定期的なビオトープ内の清掃を行い、水質悪化につながるヘドロの発生を抑制し、ビオトープを綺麗にする必要がある。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

① 大宮第二公園と西城沼の水質調査

パックテストを使用。

5月～6月実施（参加人数11名）。

② ビオトープの水質と比較・水質改善

パックテストを使用。

7月～9月実施（参加人数11名）。

③ ビオトープのかいぼり

12月実施（参加人数10名）。

④ ビオトープの定期的な清掃

豊年杓を使用。年間を通して実施（参加人数10名）。



3. 活動の成果

パックテストを用いた調査の結果、近隣にある大宮第2公園や西城沼より、我が校のビオトープの水質は悪いということが分かった。

水質悪化の主な原因であるヘドロを分解するために、ミニビオトープを作り、水草や活性炭、ヨーグルトに含まれる菌などの効果を調べた。（ここでもパックテストを使用）

また、かいぼりでヘドロをできるだけ取り除いたことによって、ヘドロによる水質への影響を最小限に抑えることができた。

定期的なビオトープの清掃を行い、ヘドロの元となる落ち葉などを取り除き、ヘドロ発生の抑制につなげることができた。

4. 今後に残された課題

大宮第2公園や、西城沼の水質と比較することで、ビオトープの現状を知ることが出来た。ただ、魚が住める水質に近づけることはできず、来年度以降の課題として残っている状況である。今後も定期的なビオトープ清掃やかいぼりを行い、ビオトープの水質悪化を抑制しつつ、魚が住める水質に近づけていきたい。